

2 県立病院事業概況

平成23年度の事業の概要は次のとおりである。

(1) 診療状況

平成23年度に県立病院で診療を行った患者数は、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う大野病院閉鎖の影響により、入院が延べ140,947人で前年度とより16,145人(10.3%)減少し、外来は延べ218,985人で前年度より44,472人(16.9%)減少している。

病院別に見ると、入院では矢吹病院、宮下病院、南会津病院で増加し、喜多方病院外2病院で減少している。また、外来では矢吹病院、会津総合病院、南会津病院で増加し、喜多方病院外2病院で減少している。

次に、診療科別に見ると、入院では小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科、精神科で増加し、内科外3診療科で減少している。また、外来では産婦人科(産は休診)、皮膚科、耳鼻咽喉科、歯科で増加し、内科外6診療科で減少している。

(2) 施設設備の整備

ア 病棟改修工事(矢吹病院)、給湯設備改修工事(会津総合病院)、ナースコール設備改修工事(南会津病院)等4病院の庁舎等改修工事を行った。

イ 会津医療センター建築本体工事を行った。

ウ 超音波診断装置(喜多方病院)、デジタルX線透視診断装置(会津総合病院)、自動血球計数装置(宮下病院)、超音波画像診断装置(南会津病院)等の医療機器の購入整備を行った。

(3) 収支状況

平成23年度における総収益は11,546,438千円で、前年度と比較して83,216千円(0.7%)減少している。一方、総費用は12,492,837千円で、前年度と比較して604,838千円(4.6%)減少している。この結果、差引純損失は946,399千円となり、前年度と比較して521,622千円(35.5%)減少している。

また、医業収益の6,970,023千円から医業費用の12,034,553千円を差し引いた医業損益は5,064,530千円となり、損失額が前年度と比較して8,310千円(0.2%)減少している。この結果、総収益対総費用比率は92.4%、医業収益対医業費用比率は57.9%となっている。

主な費用について見ると、給与費は7,350,206千円で前年度と比較して396,001千円(5.1%)減少したが、これは職員数の減などによるもので、医業収益に対する割合では105.5%となり、前年度より3.0ポイント増加している。また、薬品費等の医療材料費については1,522,802千円で、会津総合病院における血液内科開設(平成22年4月)などにより、前年度と比較して23,000千円(1.5%)増加しており、医業収益に対する割合も21.8%と前年度より2.0ポイント増加している。

累積欠損金は、前年度より946,399千円増加して26,590,789千円となり、医業収益に対する累積欠損金比率は381.5%と前年度と比較して42.1ポイント増加している。なお、一般会計から負担金・補助金として繰り入れた額は、収益的収入4,760,926千円、資本的収入1,069,405千円で合計5,830,331千円となっており、前年度と比較して169,030千円(2.8%)減少している。